

永
起
水戸部 茂 三貴商事社長

私の好きな一文字

先物協会ニュース

JCFIA マンスリー

JCFIA

JAPAN COMMODITY FUTURES
INDUSTRY ASSOCIATION

発行 日本商品先物振興協会
〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町9-9
TEL(03)3664-5731 FAX(03)3664-5733

<http://www.jcfia.gr.jp/>

FUTURES PLAZA

思い起こせば15年前、バブルが崩壊したとはいうものの、当時学生の私は空前の売り手市場を背景に、順調な就職活動を行っていた。その売り手市場を背景に、順調な就職活動を行っていた。私のでさえ、多くの企業からお説を頂いた。そんな中、業界も会社も決めていた私を、一番温かく熱心に迎えてくれたのが新日本商品だった。就職活動が終わると、周囲から業界や会社についていろいろ聞かれたが、返ってくる言葉は一様に、「やめておいたら」という殘念なものだった。確かに當時、漠然とした業



業界の広告塔としての自覚

新日本商品
町野 久永
総務部課長

界に対するマイナスイメージがあつたのも確かである。入社までの期間、自分自身も相当自問自答した。入社後、やはり営業部での仕事は想像以上に厳しいものだつた。新規顧客の開拓では激しい拒絶に遭い、馴染みの店で常連客と仕事の話になると、連客と仕事の話になると、それが本当に少しほとんどとなつた。業界に身をおくる者全てが、業界の広告塔としての自覚を持つ。それこそが今後の

開催や面接。まさに学生に対する会社の広告塔としての役割だた。商品業界はどういった業界なのか、実際の仕事は何をするのか、できる限り分かりやすく伝えられれば、こんな自分でも少しほとんどは会社にひいている。ガソリンなどの上場商品のおかげで業界を知る人も確実に増えている。最近では馴染みの飲み屋で常連客と仕事の話になると、「今年はガソリンも灯油も高いね」となどと気軽に話してくれる方がほとんどとなつた。業界に身をおくる者全てが、業界の広告塔としての自覚を持つ。それこそが今後の

が採用した社員から「新日本のセミナー」を聞いて業界、会社を決めました」などと言わされた時は本当に嬉しかった。5月の商取法改正により、業界は厳しい状況に直面し、ながらも大きく変わろうと、1968年埼玉県生まれ。1991年新日本商品入社。営業部、人事部を経て2001年より現職。

プロフィール

月9日、農林水産省にコメ試験上場に係る定款変更の認可申請を提出、同省は受理した。これによって超大型商品の上場実現に向け大きく動き出した。東穀取は今年6月までに具体的な商品設計の決定、取引システムの整備などを準備を進めてきた。これまでに、食料・農業・農村政策審議会総合食料分科会食糧部会でのコメ上場に関する討論や、当業者、農協等生産者、卸売業者、中外食や加工メーカー等実需者から意見聴取が一巡したこと、農家の経営所得安定対策が政府によって決まったのをみて認可申請に踏み切

実務的観点からスピーディーな対応

より良い方向性打ち出す

加藤 雅一 制度政策委員長に聞く

——改正商品取引所法の施行後の業界をどうみていますか。
加藤 今回の商品取引所法の改正は、わが国の商品先物市場の利便性と信頼性をより一層向上させるという観点から行われたと理解しています。この改正によつて取引の清算を専門的に行うクリアリングハウス(清算機関)が創設されたこと、取引に係る証拠金が清算機関へ預託されることとなつたこと、取引所の株式会社化の選択肢が設けられたことなどは、大変画期的なことだと思います。

その一方で、商品取引員の勧誘行為に対する規制が強化され、ことに「委託者保護ガイドライン」において勧誘の際の手続きや説明の手順、お客様に規定されたことで、我々商品取引員の営業活動が硬直的

——改正商品取引所法の施行後の業界をどうみていますか。
加藤 今回の商品取引所法の改正は、わが国の商品先物市場の利便性と信頼性をより一層向上させるという観点から行われたと理解しています。この改正によつて取引の清算を専門的に行うクリアリングハウス(清算機関)が創設されたこと、取引に係る証拠金が清算機関へ預託されることとなつたこと、取引所の株式会社化の選択肢が設けられたことなどは、大変画期的なことだと思います。

身の引き締まる
思い

——委員長としての制度政策委員会の運営方針は。

加藤 今度、副会長と同

2月には振興策を提案

特に今回、本委員会の下に小委員会として課題の案件ごとに4つの部会(財務検討、営業管理、電子取引普及、商品ファンド・海外受託促進)からなる「市場振興戦略会議」を設置します。各部会ではそれぞれの課題についてより掘り下げ、即応性のある解決策を模索していきたいと考えています。

各部会ではそれぞれの課題についてより掘り下げ、即応性のある解決策を模索していきたいと考えています。

各部会ではそれぞれの課題についてより掘り下げ、即応性のある解決策を模索していきたいと考えています。